



※今月のみ受注の書目です。注文が重複した場合は、多い方の冊数で進めさせていただきます。

歴史書／政治書ご担当者さま

# イギリスの対独「宥和」 一九二四—一九三〇年 ドイツをめぐるヨーロッパ国際秩序の再編

藤山一樹 (日本学術振興会特別研究員)[著]

本体予価 5,400 円 A5 判上製 / 304 頁 ISBN 978-4-7664-2595-6 C3022

👉 ココに注目!

- ・ 欧州の秩序安定に貢献したイギリスの外交政策を分析。
- ・ 英政府内の対外政策決定メカニズムを緻密に描いたところに特長。

連合国と敗戦国ドイツの間で調印されたヴェルサイユ条約は、フランスの要求に沿ったドイツ弱体化を狙う厳しい内容のため、両国は緊張関係をさらに強めることとなる。本書は、1920年代後半にドイツの主張に沿って条約修正を図ったイギリスに注目。独仏の緊張関係を緩和し、国際秩序安定に貢献した外交政策を緻密に描く。

👉 詳細目次は裏面に掲載! ぜひご確認ください!

👤 対象 (ヨーロッパ近現代史、国際政治を専攻する) 研究者、学生

📖 類書 大久保明『大陸関与と離脱の狭間で』(名古屋大学出版会)

📞 ご注文は FAX で! 03 - 3451 - 3124 📞

番線	ご注文部数	発行所: 慶應義塾大学出版会	本体予価	部数
新刊委託		藤山一樹 著 イギリスの対独「宥和」 一九二四—一九三〇年 — ドイツをめぐるヨーロッパ国際秩序の再編 ISBN978-4-7664-2595-6 C3022	5,400 円	★★

★1つで「500部」を表します

## 【主要目次】

### 序論 仏独の仲裁者としてのイギリス

- 一 本書のあらまし
- 二 ヴェルサイユ条約とは何か
- 三 本書の課題と視角

### 第一章 背景——二〇年代後半のイギリス外交

- 一 対外政策決定メカニズム
- 二 対外政策決定者たち
- 三 共有される過去と伝統——強制・誘導・勢力均衡

### 第二章 連合国ラインラント占領をめぐるイギリス外交、一九二四—一九二七年 はじめに

- 一 ロカルノ条約成立以前——一時的静観
- 二 ロカルノ条約の成立と占領政策——ケルン地域からの撤退へ
- 三 ロカルノ条約成立後——占領終結への一進一退
  - (一) ドイツの国際連盟加盟とトワリー会談の蹉跌
  - (二) 占領軍の一万削減

おわりに

### 第三章 ヴェルサイユ条約対独軍縮をめぐるイギリス外交、一九二四—一九二七年 はじめに

- 一 第二次ボールドウィン内閣の成立と対独軍縮問題
- 二 チェンバレンによる大陸政策の形成
- 三 ロカルノ条約の締結と対独軍縮政策の転換
- 四 連合国軍事監督委員会 (IMCC) の解散

おわりに

### 第四章 ラインラント非武装化をめぐるイギリス外交と占領終結への道、一九二八— 一九三〇年

はじめに

- 一 占領問題の再浮上
- 二 ドイツ政府の攻勢とチェンバレンの疑念
- 三 ジュネーヴ共同声明という分水嶺
- 四 イギリス政府内の対ドイツ認識——同情と脱脅威化の交錯
- 五 チェンバレンと外務省の不協和音
- 六 二つの間奏曲——ヤング委員会と第二次マクドナルド政権の誕生
- 七 ハーグ会議、あるいは「大戦の総決算」
  - (一) イギリス政府の対処方針とその論理
  - (二) ラインラント調停委員会をめぐる攻防
  - (三) 賠償金の分配という難問
  - (四) 最終合意へ

おわりに

### 結論 英独仏による大国協調へ